

民意に応え、辺野古への新基地建設はただちに撤回を！ ～沖縄県知事選挙支援に参加してきました②～

1月13日(木)から14日(金)の間、沖縄知事選挙支援に参加しました。選挙宣伝行動に参加すること自体初めての体験であり、何を行動していくのかパッとイメージが湧かないままの参加となりました。さらに普天間基地・辺野古問題を争点にした重要な選挙であることから、沖縄へ向かう飛行機の中でも緊張した気持ちで参加しました。

活動内容としては、朝8時～沖縄協同病院前での街頭宣伝。協同病院職員の方々に混じりながら旗やプラカードを掲げて道行く人に基地反対を呼びかけました。その後、割り当てられた地区の家々に選挙ビラを届けてきました。夕方は大通りの交差点で支援者が集まり街頭宣伝。「V字ロード作戦」と称して交差点から歩道橋の上まで、歩行者の邪魔にならないよう朝の街頭宣伝と同様のことをしました。

活動を通して思ったのは、基地問題に対して沖縄県民が誰もが真剣に考えているなど強く感じました。私



職員の方からいただいた寄せ書きを届けてきました

は活動中に、現地の方と直接話をする事は叶わなかったですが、他の支援者の方々が現地の方と対話した内容からは、「基地をなくしてほしい」「基地は沖縄からなくなると思っているけど、基地を本当になくしてくれるなら投票する」など、基地を本当はなくしてほしいという沖縄県民の気持ちを聞き取っていました。

そして11月19日(日)の投票の結果は、基地根絶を掲げた那覇県知事にオナガ氏、さらに那覇市長に城間氏と民医連が支持した候補が当選する結果になりました。この選挙は沖縄の基地問題改善にむけて大きな一歩となりましたが、やっとスタートラインに立てたのだと私は思います。これからの沖縄基地問題がどのように改善されていくのか、遠く香川から見守り、できるかぎりの支援を続けたいと強く思います。

(県連事務局 中田康博)



沖縄協同病院前での街頭宣伝

リレー



投稿

いつでも憲法

県連理事に続いて各事業所の管理者・職場長の方々に、憲法に対する想いをリレーで投稿してもらいます。

「僕は、人を殺すために生まれてきたんじゃない」戦争で、人が人を殺す戦場での叫びです。今、また日本は、戦争に行ってもよいという法律、危険な集団自衛権行使容認を進めていっております。この法が、可決されれば、憲法9条はすんなり変えられます。理不尽な国会法案に物申したいです。悲惨な戦争を二度と起こしては、いけない。何のために人は生まれてきたのか、戦争に加担し、人を殺すために生まれてきたのではないことを改めて声を上げていきたい。また、日本には、憲法に守られ、私たちは、平和に過ごすことが、できているのです。その憲法を変えようとしている第1歩目を踏み止まらせ、声を上げていかなければならない時がきました。集団的自衛権閣議決定が強行されましたが、憲法を超えられるものではなく、自衛隊法、PKO法など10数本の法律を変えなければ自衛隊を動かすことはできないと知り、今、アクションを起こしていかなければ、なりません。憲法9条を守れ、集団的自衛権行使容認反対の声を上げていかなければいけません。

また、社会保障制度改悪に対しても、弱者いじめとしか考えられない。要支援の方や、要介護1・2の方が、ターゲットになり、2割負担に導いている行政は、在宅へと考えておりますが、在宅での生活困難を考えておらず、介護難民をどんどん増やしていき、憲法25条を無視した改正に反対していかなければなりません。

平和と人権、いのちを大切に守る私たちの理念に反することを絶対に許しません。

高松協同病院通所リハビリ課長 三島則子